大御當番

二

浪

内閣文庫
和書 類
三二五六九號
三九二冊
一五二函
一〇六架

内閣文庫
番號 和 32569
冊數 394(297)
函號 152 121

共六

国立公文書館
National Archives of Japan

寛延元辰年二月二日　村上彦六郎吉久書〔?〕所

寶暦〔?〕卯年　月　日譜〔?〕

大河内松平丹後守組　小普請〔?〕　村上六之助吉忠
　改　彦六郎

吉忠元来大坂の定番与力ニ而事〔?〕〱
明暦三酉年六月八日大坂より御金
宰領として江戸ニ来り
万治三子年秋坂城の詰番与力
寛文元丑年十二月十五日大坂城を後を
らゝ奉行を勤めニ而〔?〕
浮禍寺〔?〕

寛文三卯年夏二条城の御番ニ参り
於同所二条城大御番頭ゟ川御番所乃
中ニ多く送り…御用を命せられ
明の辰年…十月九日…
寛文九酉年秋大坂城の御番ニ参り
明の戌年夏四月…
江戸ニ帰る

延宝二寅年九月十三日大御番組入

延宝三卯年　月　日二条城の御番ニ参り
…八御帳白銀拾枚時服二…
是より以内も御恩…
延宝六午年秋大坂城の在番ニ参り明の

延宝七未年四月廿三日…の奉書
…先年松平相模守…
…大久保出雲守…
死去…
…
年ニ参り
天和元酉年夏二条城の御番ニ参り
天和二戌年五月廿一日並御加恩二百俵
元ト合三百石余
貞享元子年五月十八日死去…

萬治二己亥年五月

慶安元戊子年　月　日濟

大御番松平丹後守組　窪田甚右衛門久須惠尽
小普請
二言家儀　窪田長十郎久供
改　甚右衛門

久供事大坂の定番を不勤事有之く

元禄八乙亥年十二月七日辞入堀田河内守組

宝永元甲申年六月九日息男三左衛門久定
二条城の勤番に於て粗暴有之く
相番二人を殺害しろハ松浦大膳を
互に討はらもしよに依て嘉志す下しと
江仰か七月九日免さる

享保四亥年八月晦日為安房守之處十七歳
同年九月廿日致仕
享保七寅年七月十日死八十六歳

寛永三寅年二月廿七日
慶安元子年　月　日家督
大河内松平丹後守組　西尾隠岐守種長末子
小笠原信
二百俵　西尾隠岐守種章
改　権之丞
同年秋坂塚の法傳了入事了
明暦元酉年夏二百俵の所法傳了入事了
万治元戌年七月十九日新御番大久保市十郎組

寛永三寅年二月廿七日

大御番松平丹後守組

大御番本多豊前守組父右馬正光惣領

二百俵　小笠原彦三郎正勝

同年十二月朔日廩米二百俵を賜り

同年秋坂城の諸番を承るより

又三度まて大坂に来て在番す

寛文三卯年十二月十三日　依勤労　御蔵地米込

延宝八申年十二月十二日跡目七百石是迄の

二百俵ハ返し奉る

天和二戌年十二月三日新御番大久保伊豫守組

御召入

萬治三子年二月廿七日

大御番松平丹後守組

大御番松平丹後守組忠右衛門治久惣領

二百俵 井戸忠右衛門治基

後三百俵　後吾右衛門

明暦二申年廩米二百俵を賜り

治基之弟主殿の跡を継ぎ年来

万治元戌年十二月　日跡目三百俵となる

二百俵ハ返し奉る

延宝五巳年三月廿五日抜て御金奉行

元禄二巳年閏正月三日御役を老年ゆゑ

逼塞すへしと仰付

同年四月十日御勘定せうやくに命せ
らる事 改せしもハ逼塞を免されし
中書信ヲ乃り老后書院番組ニ入
元禄十四年二月廿五日死六十六歳

明暦二申年九月十二日
寛永十八巳年誕生
武藤兵部左衛門義綱養子
中書信
大御番大久保右京亮組 四番 武藤長三郎義信
改 四右衛門
義信事大坂の御番備ニ年ニ年勤く
元禄六酉年四月廿九日大御番組頭
同年三月廿七日二条城の御番ニ年ニ年赴きし
御暇白銀拾枚時服二を賜ふ
元禄八亥年十一月九日死六十八歳

明暦二申年十月三日

長崎源右衛門元政二男
御書院番松平伊賀守組源右衛門元義弟

大御番大久保右京亮組　三百俵　長崎八郎右衛門元茂

其後廩米二百俵を備ふ

明暦三酉年春二条城の勤番にまかり

しに病にふす

明暦三酉年十月廿三日於二条城歿す年二十六歳

元茂の遺骸を京都本願寺に送る

明暦三丙年四月三日

寛永十七庚辰年十二月　日晴

永田権八郎正次養子

大御番大久保右京亮組　小普請　四番　永田権八郎正勝

正勝義大坂の役ニ陣ニ参ル年ニ事勤く
寛文七未年十二月廿七日京都八幡の
御造営の御用を務めしとて黄金一枚ニ
時服二ツを賜る

天和元酉年十二月十七日番入内藤出羽守組

元禄七戌年二月廿九日死

万治元戌年六月廿日　酒井与七左衛門豊治卒

小普請

寛永十九年壬午十二月朔日御目見

大御番大久保右京亮組　八百石　酒井小左衛門貞治

改市左衛門

貞治　京大坂の宗家より系ある事

云々

貞享三寅年閏三月廿六日　大御番組入

貞享元卯年三月朔日　二条城乃

御番ニ而参勤之節時服白銀十枚被

下置候事より同し御恩賜仕候

元禄三午年秋坂城の詰番ニ参ル
元禄六酉年夏二条城の御番ニ参ル
元禄九子年秋坂城の詰番ニ参ル
元禄十二卯年夏二条城の詰番ニ参ル
元禄十六未年正月朔日西城の御裏御門番の記
同年十二月十一日布衣着ることを免さる
宝永元申年十二月十二日死 六十四歳

万治二亥年二月四日
竹本備右衛門正時二男家督
中人番多右三郎右衛門ノ組
大御番大久保右京亮組 二百石 竹本武左衛門 寛文
寛文元年大坂の寄合ヨリ参ル番衆
天和三亥年十二月廿八日儀ろ御番与力衆と
並べきく作法と記る
元禄二巳年四月廿三日御暇乞
元禄四未年十二月十二日辞入日夜上紀伊組
元禄八亥年二月二日死

万治二己亥年七月晦日

新御番遠山十右衛門組中根九郎左衛門実惣領

大御番大久保右京亮組 二百俵 中根又左衛門正輝

後 九郎左衛門

是迄廩米二百俵を備り

正輝ニ京大坂の御蔵より来る

寛文十庚戌年十月廿六日 従部屋 御膳物奉行

万治二亥年七月廿日

大御番大久保右京亮組　二百俵　山岸弥平次家為

元大御番相勤候山岸弥左衛門二男成恵次

後　次郎兵衛

寛文元丑年十月廿二日新御番天野三郎左衛門組

其後番衆二百俵之上候了

万治二亥年七月晦日

大御番大久保右京亮組　二百俵　榊原左兵衛政隆

大御番松平豊前守組源兵衛政信惣領

後二百石　段　寄合席右大夫

其後廩米二百俵を賜り

政隆事大坂の御番衆にて年々ゆく

延宝八申年九月七日　跡目　二百石

そのゝちの二百俵ハ返し上る

元禄二巳年六月十日御廣敷番の頃

宝永六丑年三月廿五日死　御廣敷番の頃

正徳元卯年十二月廿三日辞入松平三左衛門組
正徳四午年九月六日死七十九歳

万治二亥年七月四日
大御番大久保右京亮組 二百俵 富田又左衛門 正俊
大御番戸田淡路守組又大御番西次想尺
後四百石
寛文元丑年十二月十二日廩米二百俵と
錦了
正俊京大坂の新番より差手致し
寛文五巳年十二月十二日領国四百石宛行の
二百俵ハ返し上る
元禄二巳年八月廿一日死

万治二亥年七月晦日

大御番大久保右京亮組 二百俵 近藤源之丞正光

大御番大久保右京亮組近藤八之丞正勝二男

其後廩米二百俵を賜る

正光之事大坂の御番に参り年若く

延宝元丑年迄御番に相勤りしく

して

延宝元丑年十二月廿五日新御番 能勢市十郎組

万治二己亥年七月晦日

大御番大久保右京亮組　二百俵　大久保忠七郎忠廉

小普請伊沢隼人正組源次郎忠之惣領

後　源次郎

三百石廩米二百俵と備[?]

忠廉弟[?]後の宝[?]ヲ以弟[?]ヲ事[?]

寛文五乙巳年十二月二十日父失ぬ[?]

其父の料同しく九六遅滞[?]と不願

寛文十二壬子年十二月十八日死　二十四歳

万治二亥年七月四日
桜田御屋鋪御書院番ゟ御切米新御加増御役料被下候
大御番大久保右京亮組　二百俵　御切米ニ而高辺
改　本多主膳
壬午廩米二百俵之偏り
当辺京大坂の御蔵ゟ年々半分宛
延宝七未年二月三日　従部屋　御番入大久保山城守組
天和三亥年閏五月廿六日　組替大御番松平
主計頭組ゟ御免

万治三子年三月廿九日

久保市之丞勝清病死

寛文元丑年十二月廿七日跡目

小普請佐渡之丹後守組

大御番太久保右京亮組　二百石　久保三右衛門勝之

勝之ニ弟大坂の名跡了本家之事　二度

寛文八申年三月六日　拂方御納戸

寛文元丑年六月廿八日

小林次郎左衛門支配ニ而
新御書院番并右京組ニ而右衛門跡手明

大御番大久保右京亮組　二百俵　小林十右衛門忠政

寛文三卯年三月朔日廩米二百俵被下

同年夏二条城の番ニ参る

寛文五巳年十月廿四日大坂御蔵奉行

同日御加恩百俵都合三百俵

同年　月　日御賄御加恩御書出

恩賜被下

寛文七未年八月十五日家督ニ参る

流偶し大纏十筋を勤る　御賜黄金三枚

附駿二を備ふ

元禄三午年十月三日大坂御金奉行を

奉書をもつて命せらる

宝永三戌年九月　日辞入松平玄蕃頭組

宝永六丑年十月廿八日死七十三歳

寛文三卯年十二月廿一日

大久保荒馬忠名改曽
和田御殺中十人頭大久保荒馬忠高弟

大御番大久保右京亮組　三百石　大久保半右衛門忠頼

改
四郎左衛門
数之助
喜左衛門

同年父の本知三百石を備ふ上野の国

乃同かりしれ下

当形は大坂の新番関与年々年にかく

延宝元丑年十二月廿五日新御番大久保喜左衛門組

寛文三卯年二月十日

寛文二寅年十二月九日跡目　松平長左衛門舎治恕氏

大御番大久保右衛門亮組　小普請　同様　松平源左衛門舎信

舎信儀大坂の定番被仰付候ニ付是ニ而死去

宝永七寅年六月十八日大御番組江

正徳元卯年二月十五日二条城定番被仰付

其地ニ八浦眼白銀十枚時服二被下置

正徳三巳年正月廿日死七十歳

寛文二卯年二月十三日
深津彦兵衛西後惣領
小普請瀧川長門守組
万治三子年十二月廿三日跡目
大御番大久保右京亮組 三百俵 深津九郎兵衛西種
西種事大坂の御番より年々勤く
延宝七未年九月二日 拝入大久保山城守組
元禄七戌年七月十日致仕
宝永二酉年七月九日死

寛文三卯年二月十七日

布施右京右馬ノ丞養子
小幡信

正保二酉年　月　日御番

大御番大久保右京亮組　三百石　布施甚左衛門忠正

後三百俵

忠正事大坂の家来ニ而年々参府
其后采地永荒の地有之ハ右采地ニ加へ
備る

貞享四卯年四月廿八日御番入彦坂壱岐守組

宝永元申年六月廿四日死

寛文三卯年三月二日

伴野縫殿助貞明惣領

御書院 御小性組松平監物組

大御番大久保右京亮組三百石 伴野九左衛門貞昌

貞昌勤ひより依て大御番へまいり

貞昌京大坂の勤番仕よ年ニ三度

寛文十二子年稼入 滝川長門守組

元禄四未年三月十二日死

寛文三卯年十二月十九日
市川吉左衛門昌恒忌服

寛文元丑年　月　日済

小普請

大御番大久保右京亮組　三百俵　市川権之助昌義

寛文九酉年四月五日死

寛文三卯年十二月十九日

筧新太郎正成六男
御先鉄砲頭筧新兵衛正明弟

大御番大久保右京亮組　二百俵　筧　新助成孝

寛文五巳年十二月廿二日廩米二百俵被下之候得
成孝元来大坂の節之儀ニ付年々ニ無之候

宝永三戌年　隠居入松平主計頭組

同年九月廿八日死享年七十余

寛文三卯年十二月十九日

御裏御門切手番之頭鈴木左兵衛重長忰

大御番大久保右京亮組　二百俵　鈴木源五郎重勝

寛文五巳年十二月廿四日廩米二百俵を

賜る

重勝は大坂の宿直に参りし

延宝元丑年十二月廿二日 移任 新御番駒井右京組

寛文三卯年十二月十九日

大御番大久保右京亮組　二百俵　小林六郎右衛門　重守

新御番駒井右京組市右衛門正守養子

後二百五十俵

寛文五巳年十二月廿五日廩米二百俵を備ふ

重守弟大坂の今福村子年ニ替候く

元禄十丑年七月十八日加増二百五十俵是迄の

二百俵ハ返し奉る

元禄十一寅年四月五日　番入　松平主計組

寛文三卯年十二月十九日
大御番組頭大橋与惣右衛門親重家督
大御番大久保右京亮組　二百俵　大橋与右衛門某
改十郎右衛門
寛文六巳年十二月廿三日廩米二百俵被下置
十郎右衛門某京大坂の御番ニ参ル事三度
延宝元丑年十二月廿五日　新御番駒井右京組

寛文三卯年十二月十九日

大御番大久保右京亮組　二百俵　大橋三郎左衛門親清
大御番組頭大橋与惣右衛門親重二男

寛文五巳年十二月十三日廩米二百俵を
賜ふ

親清事大坂の御番ニて参り候ゟ参府候く

正徳年中辞入松平主計頭組

正徳四午年正月廿八日死七十二歳

寛文三卯年十二月十九日

大御番大久保右京亮組 二百俵 深尾安次郎八元良

大御番中根日向守組西尾右京亮 元禄惣(?)

後三百五十石

改 七右衛門

寛文四辰年十二月廿二日廩米二百俵之儀

元良儀大坂の定番より参り事致し

天和元酉年七月十二日御加増二百五十石是

より二百俵ハ返し奉る

元禄五申年十一月廿六日富士見番之頭

元禄九子年四月二日寄合入中根大隅守組

宝永四亥年十二月十四日致仕休山と云

享保十巳年五月十六日死

寛文三卯年十二月十九日

大御番安藤伊賀守組市郎右衛門一忠代

大御番大久保右京亮組 二百俵 三田十郎右衛門守清

後 小右衛門

寛文五巳年十二月廿四日廩米二百俵を賜る

寛文六午年秋於城の張番に参り

寛文八申年五月六日 依病 拝ゟ御納戸

寛文三卯年十一月十九日

大番松平豊前守組同前左衛門西勝吉兵衛

大番大久保右京亮組　二百俵　芝田源左衛門

後　内記

作左衛門

寛文六巳年十二月廿五日廩米二百俵を

賜る

西甫京大坂の宮並に参る事

三十度

延宝元丑年十二月廿一日

任新番　柿なの御綱戸

寛文三卯年十一月十九日

大御番大久保右京亮組 二百俵 給来年寄 重治

甲府御家人より務来年久〻 重春惣領

後二百五十俵

寛文五巳年十二月廿三日廩米二百俵を
賜る

重治京大坂の御金奉行を承く
延宝三卯年二月十四日父重春の積り
五十俵を加へあひ元二百五十俵

延宝七未年十一月廿九日 職を御納戸

寛文三卯年十二月十九日

大御番大久保右京亮組

雨宮権左衛門

寛文五巳年四月廿五日

松浦八郎五郎勝次二男

小兵衛信

寛文五巳年四月二日跡目

大御番大久保右京亮組　三百石　松浦八郎五郎勝長

勝長事大坂の富盛に参る事なく

自貞享三寅年七月十二日富士見番之頭

元禄弐巳年二月廿二日老辞　大久保

玄蕃頭組ニ入

元禄十二卯年十二月十八日致仕

宝永六丑年十月四日死　八十九歳

寛文六午年三月七日
慶安四卯年十二月晦日　石巻庄九郎忠章忠成
小普請
石河当大久保右京亮組　二百俵　石巻次郎左衛門忠邑
寛文十戌年十月六日掛り御納戸

寛文六午年六月十三日

長岡助左衛門房守養子

小笠原信濃守伊沢隼人正組

万治元戌年閏十二月十八日跡目

大御番大久保右衛門亮組 番入 長岡市助房豊

改 伊右衛門

新右衛門

房豊元来彦之丞の実父與兵衛房重事死(?)く

天和元酉年四月十六日大御番組長(?)

同年 月 日 二条城の実(?)父に申事は

御服自殺仕候段二付(?)得り以所(?)も

御恩被仰付

天和二戌年十月廿二日 並御加恩二百俵

元高四石

寛文七未年二月廿七日
大御番大久保右京亮組 二百俵 松平九郎三郎昌定
松平伝右衛門宗昌二男
御小性 松平伝右衛門利正弟
改 長左衛門
右 廩米二百俵ヲ給ル
昌定 京大坂の寄番ニ而参ル 年々参ル
天和三亥年六月廿五日 移入 内藤出羽守組
元禄十二卯年十二月廿五日致仕
宝永二酉年十月十七日死 七十歳

貞享元子年秋 坂城の法儀ニ而参ル
貞享四卯年春 二之丸城の勤番ニ而参ル
元禄三午年秋 坂城の寄番ニ而参ル
元禄六酉年正月九日死 四十六歳

寛文七未年十二月廿一日

新御書院番并右京組二而支配被申付候

大御書院番大久保右京亮組　二百俵　服部志摩守御家来[illegible]

後　源之助

寛文九酉年十二月廿三日慶長二百俵之高ニ

寛文十二子年秋坂城の御番ニ入申候

延宝元丑年十二月廿五日役　元方御納戸

寛文七未年十二月廿七日　藤田三九郎二男種善養子

寛文七未年十二月十日跡目　小普請加々爪飛騨守組

大御番大久保右京亮組　罷在　藤田甚之丞種昆

致逐電

種昆二男吉種の[illegible]に有之

天和元酉年七月七日死

寛文十戌年八月廿七日
長濱八郎左衛門元茂養子
小普請滝川長門守組
明暦三酉年十二月廿五日跡目
大御番大久保右京亮組　三百俵　長濱權之丞元勝
後甚七郎
元勝弟大坂の藤主溝口ニ年不知
元禄年中拜入彦坂壱岐守組
享保二酉年十二月廿三日死七十五歳

寛文十戌年九月十一日

川崎又左衛門長如八歳養子

小普請

寛文八申年　月　日済

大御番三枝摂津守組二百五十俵　川崎又左衛門忠長

改　七左衛門　又左衛門

忠長[illegible]

延宝七未年　十二月廿九日　御腰物奉行

寛文十三癸丑年九月十三日　東条総兵衛政長嫡男
小普請滝川長門守組
寛文二壬寅年十二月九日分知
大御番三枝摂津守組　三百石余　東条権之進　寅
改
渡邊信濃守
寅年大坂の御番を年々相勤
元禄五申年十月九日　小普請奉行
元禄九丙子年四月廿日　小普請奉行組ニ
同年十二月廿二日　布衣着之を免さる
元禄十五年十月十日　護持院護国寺
を造るにつき御用に勤めしとて
時服三を賜る

元禄十六年四月十七日麻布御殿を
造らせられしかハ御用の労を賞せられて時服二を
賜ふ
元禄十六年七月三日御加恩三百石常陸国
筑波郡志筑郡新治郡の内にをいて下
凡千百一石
同年九月十二日東叡山
厳有廟之御再建寺坊を造らせられしかハ
奉行せよと命せらる
元禄十六年十二月廿七日故
厳有廟御上棟あるの後紋寄仰付かされ
信濃守と改

同年三月九日故東叡山
厳有廟を造らせ給ひしかハ観賞行はれ
黄金十枚三時服三羽織一を賜ふ
元禄十三庚辰年六月十日稀寄合に列す
宝永元甲申年八月七日小石川御殿奉行
正徳三巳年九月廿六日御役を止められ
寄合に列す
享保十乙巳年三月晦日卒年七十八歳

寛文十二子年四月廿八日
松平若狭守忠刻逝去

万治元戌年十一月廿六日譲
小普請瀧川長門守組

大御番三枝摂津守組 二百俵 松平平左衛門忠精

忠精承大坂の御番に参る事
四代

貞享元子年二月十二日 拂方御役之

寛文十二子年五月廿六日

小普請奉行小菅猪右衛門惣領

大御番三枝摂津守組　二百俵　小菅文八郎　五歳

後二千石

亡後扁中家　二百俵を賜り

正能亡父大坂の定番にあり事ありて

貞享元子年十二月廿七日五十七ヶ間

定番におゐてありさとして其令拝と

賜る

元禄元辰年十二月十日跡目二千石先途

二百俵をは返しまゐらする

大御番にて二千石の
縁八前後あし

元禄五申年十月廿三日 死 四十六歳

父正武御勘定頭まてつとめ叙爵まて
仰出されしに此頃ハ御書院の番なりけれハ
父ハ御勘定頭なれとも子
大御番なれハかく写しける

寛文十二子年四月廿六日

新御番頭井上右京組戸田勝隆患尻

大御番三枝摂津守組 百俵 久保十兵衛勝清

後三百石

其后廩米二百俵を備り

勝清兼大番の家督を継奉る

延宝二寅年七月廿二日加増二百石是

迄の二百俵ハ返し奉る

天和元酉年 二月三日 死 三十一歳

寛文十二子年五月十六日

右者書院番組頭坂本右衛門正重二男惣領

大御番三枝摂津守組　二百俵　小濱市十郎正澄

後喜右　改源右衛門

其後蔵米二百俵と備り

正澄儀大坂の御番ニ而年々番ニ於く

元禄九子年七月二日家督高百石是迄

の二百俵ハ返し上る

元禄十五年秋代人として坂城乃

御番ニ而年々しに留りく

元禄十一寅年二月十三日致病気坂城ニ於而死卒家

西京の般若を大坂生玉寺町齢延寺に送る

寛文十二子年五月廿二日

大御番三枝摂津守組

大御番[illegible]若狭守組[illegible]次郎兵衛要胤養子

二百俵 相馬小平太信胤

後ニ五百石　後 小兵衛

其後廩米二百俵を備る

信胤三年大坂の宝塔に参る毎年

於く

元禄三午年八月六日跡目五百石

是より二百俵ハ返し奉る

元禄九子年七月晦日 新御番牧野半三郎組

延宝三卯年二月七日　佐原七蔵良之養子
寛文十二子年八月六日家督　寄合
大番三枝摂津守組　二百俵　佐原小十郎良重
良重京大坂の御番に参る事十一度
天和二戌年夏二条城の御番に
参る附り役之を務む
貞享元子年十二月廿一日大番組頭
同年　月　日　坂城の諸番に参る六
御暇白銀十枚時服二を賜る是より
以後も此恩賜有り

貞享二丑年十二月廿二日御加恩二百俵
九百石弐千俵
貞享四卯年度二条城の定番を勤め
元禄三午年六月晦日落馬して
痛ニより其上眼気煩しく所の
おもく御役をも免され　大坂
表御守組となる
元禄九子年十二月七日致仕
元禄十六未年二月廿日死五十八歳

延宝三卯年二月七日
寛文元丑年十二月十日遺跡　加藤権九郎正直息
小普請
大御番三枚橋摂津守組　三百俵　加藤八郎左衛門正雅
正雅元来大坂の御蔵奉行より来る事なく
宝永元申年五月廿一日御箪笥奉行
享保元申年三月廿七日寄合入松平周防守組
同年十二月廿日致仕
享保三戌年八月朔日死

延宝三卯年二月七日

寛文四辰年十二月十日跡目

加茂八右衛門吉之惣領

小普請 滝川長門守組

大御番三枝摂津守組 二百俵 加茂又三郎邦盛

改 一四郎右衛門

学

邦盛家大坂の宿老より来る年中八度

貞享三寅年十二月十九日御勝手奉行

延宝三卯年二月七日
寛文十戌年十月廿四日家督　松永左衛門右馬某嫡子
小普請
右筆三枚橋摂津守組　現米百石　十五石　松永権八郎政重
改左衛門右馬
政重事大坂の家来子々事々云々
貞享元子年四月廿一日御書物奉行
元禄七戌年十二月廿二日務入彦坂左衛門組
宝永二酉年九月二日死

延宝三卯年十二月九日
赤井権左衛門時吉遺跡
小普請
家督
大御番三枝摂津守組　二百石　赤井長十郎時元
改　甚左衛門
時元ニ京大坂の盗賊穿鑿に来る事
度々
老衰賜黄金二枚入朽木周防守組
享保四亥年十月二日為酒井大学頭与力
同年十二月十一日死

延宝三卯年二月九日

延宝二寅年十二月十八日家督　永井勘九郎西勝嫡子
岩佐滝川長門守組

大御番三枝摂津守組　三百石　永井十左衛門正清
改　勘九郎

正清[illegible]大坂の[illegible]
貞享二丑年十月廿二日浅草御蔵
奉行たるべき仰を蒙る

元禄三午年十二月晦日大御番組入
同年七月朔日[illegible]
御暇白銀拝借被仰付之[illegible]
[illegible]

元禄六酉年夏二条城の御番ニ参ル
元禄七戌年十二月廿二日御加恩二百俵、元高合四百
元禄九子年秋大坂城の御番ニ参ル
元禄十巳年七月二日居屋敷二百俵を
拝地ニおゐて[illegible]武蔵国の内ニて
ニ下

元禄十三辰年夏二条城の御番ニ参ル
元禄十五午年秋大坂城の御番ニ参ル
宝永二酉年夏二条城の御番ニ参ル
宝永五子年秋大坂城の御番ニ参ル
宝永七寅年閏八月十六日番入、松平[illegible]組
享保元申年閏二月三日死

延宝四辰年四月十日
延宝二寅年七月十二日誕生
大御番三枝摂津守組 三百俵 瀬名新八郎 弐男
瀬名市郎兵衛清貞四男 妻ハ
小普請大久保山城守組
後 左之助
源右衛門
弐男 瀬名大坂の御番(?)に[illegible]参ル事
[illegible]
元禄四未年十一月十九日番入、大久保玄蕃頭組
元禄八亥年四月朔日 元組大御番
三枝能登守組 [illegible]

延宝六午年三月廿九日　内藤志摩守重長支配

延宝五巳年閏十二月　日暦　小普請大久保山城守組

大御番三枝摂津守組　三百俵　内藤源右衛門重孝

改　嘉三郎

重孝弟大坂乃字兵衛子弟事

良く　重孝ハ父ハ御書院番なるに
重孝秋ニ依て大御番ニ入る

宝永四亥年十二月九日死

延宝六午年三月廿九日

鈴木淡路守重春二男
小普請大久保右京亮組

延宝己未年七月廿三日分知

大御番三枝摂津守組　二百石　鈴木治左衛門重栄

後　清左衛門

重栄ニ弟大坂の宿直ニ八年之事
二言

貞享三寅年十二月十九日元方御納戸

延宝六午年三月廿九日
大御番三枝摂津守組
御書院組賀見新左衛門親二男
二百俵　貫見源之丞当番補
後　平左衛門
播磨守
延宝八申年三月廿六日蔵米二百俵加増
西ノ御丸大坂の御番より年々三度
貞享四卯年二月廿六日大御番組入
同年三月朔日京都の御番より六
御服白銀拝領二ヶ偏ニ是より同し
御恩偏ニ
元禄元辰年十二月十一日御加増二百俵都合四百俵

元禄三午年秋坂城の御番にまゐる
元禄六酉年夏二条城の守衛にまゐる
元禄九子年秋坂城の御番にまゐる
元禄十二卯年夏二条城の御番にまゐる
元禄十五午年秋坂城の御番にまゐる
宝永二酉年夏京都の御番にまゐる
宝永五子年秋坂城の御番にまゐる
正徳元卯年夏二条城の守衛にまゐる
正徳四午年秋坂城の御番にまゐる
享保元申年四月十一日御目付普請御加恩
百石 是よりの御番儀も寄合にまかせ務む
三河国の内にて務め九百石

同年七月廿一日布衣をきる事をゆるさる
享保四亥年八月廿八日御勘定奉行に任じ御加恩
五百石合て千石 是も又三河国のうちにて給ふ
同年十二月十八日叙爵す仰せて播磨守と改
享保六丑年三月廿日道中奉行を兼
ねて仰せをかうぶる
同年四月晦日殿中にて公事訴訟の
裁許を下しめされる時正論をたてける
其の下総国五ヶ国にある御料の農民ら
訴論を裁断しけるに昔御示に
ならひて盛し給ふ仰せを蒙り明の五日
営中にまいりてききの公の事を仰せて

時服二を賜ふ
享保七寅年三月廿八日當十月
有章廟七回の御追福御用を命せらる
同年八月九日公事方となる
享保九辰年十月廿九日道中奉行を
免さる
享保十巳年九月廿日下総国飯沼新田
見分御用を命せらる 同月十三日御暇
黄金五枚時服二羽織を賜ふ これより
飯沼に参て新田を検分しつゝ
帰る 十二月十五日御褒す
享保十二未年七月八日新田検地御用を
命せらる 十月八日関東の内新田検地の
検分の事により御暇 黄金三枚時服二を
賜り これより飯沼等を検分して
十二月十二日事終りて御褒す
享保十三申年九月十六日 并十月
文昭廟十七回の御追福御用を命せらる
十月御用を勤む
享保十四酉年四月晦日 并五月
厳有廟五十回の御追福御用を久松大和守
定持にかはり命せらる 六月 并御用を
勤む
同年七月廿六日公事方となる

享保六丑年十月四日
御簾中様御新葬御法事御用を命せらる
享保九辰年すでに七十にいたりけれハ退職の事を願ひにけれとも
止めたまへとて止まりけるに
年老ぬる事を以て解職の事を
願ひに終に許し下されて
享保十九寅年十二月廿八日寄合に加へらる
願のまゝに御役を免されこれまでの労に
むくひ給ひて時服を給ふ
又別に年ごろ新田の御用を務めて新
墾の租税少なからすなりぬる用ひ[illegible]ける

又少なからす西浦の田畠多くしとて
黄金五枚を賜り男冨令に列す 西浦の
田二人前にも落手もかゝることなる 恩例八帰
りきる所なり 新田の事を司りて功有る
ことハ祖尾春央よりはるかにまさりて 春央の緒を
成し事ハ西浦の功にありと人皆称美す
元文二巳年四月十四日卒 年八十 岩采

延宝六午年三月廿九日

大御番三枝摂津守組

新御番能勢市十郎組十二番吉惣領

二百俵　小林十三郎為重

後二百五十俵　改伝四郎

其後廩米二百俵ニ備へ

為重ニ家督之節の高ニ不足之事有之ニ付

天和二戌年　月　日端目二百五十俵迄の

二百俵ハ返し有る

正徳三巳年八月三日死

延宝六午年三月廿九日

大御番三枝摂津守組　二百俵　田中新右衛門理信

大御番堀田對馬守組仁右衛門理勝養子

改　八三郎

延宝八申年十二月廿六日廩米二百俵之御加増

理信事大坂の御番之節ニ至り

貞享三寅年十二月十九日　致仕　不ミ掛ヶ御組ヘ

延宝六午年三月廿九日
神田御殿御留守居田沢六左衛門昌次悴
大御番田中六郎兵衛組六左衛門昌英悴
大御番三枝摂津守組 二百俵 田沢市郎左衛門昌平
其後廩米二百俵を領ス
昌平二男大坂の御番衆勤中ニ事有て
享保元申年三月十五日 父共ニ御手討
多しか所の御用しられハ逆鱗とおそれ
享保六丑年十二月廿四日死 四十五歳

延宝六午年三月廿九日

大御番三枚橋澤守組へ　二百俵　加茂平九郎　西殿

大御番水野周防守組　新右衛門定実子

後高六百石

後赤井主膳

延宝八申年三月廿六日廩米二百俵被下候

西殿京大坂の御用ニ付新事ニ付

元禄元辰年十月二日　増六百石

是迄之二百俵ハ返し上ル

元禄十一寅年十月十五日大御番組頭

元禄十二卯年二月朔日二条城の番衆

…八月限田録持寄時服二被下

元禄十二己卯年十一月廿九日跡入大久保玄蕃頭組
享保四己亥年八月二日為安藝之膳亮
享保六辛丑年十二月廿五日死

延宝六午年六月晦日
寛文五乙巳年十二月十二日跡目
大番三枝摂津守組 三之丞 久保田六左衛門某
久保田六左衛門某忠次
由書付
六左衛門某二男某之坂の実父某
於々
宝永五子年九月五日死

天和元酉年二月廿一日

延宝七未年十二月十二日跡目

鈴木市郎右衛門惣領養子

大御番稲垣安芸守組　小普請　二百俵　鈴木又四郎重俊

改　市郎右衛門

重俊ことは大坂の宿直にありて事あらく

享保六丑年九月十二日駒場野にて

鶴あを御用を勤免　同月十八日

営中に召されて時服二つを賜り　御乃

寅年九月廿九日にも又此事ありしとて

営中に召されて時服二つを賜る　是等の事も

其態をと旅さをたまはりて

其生涯とあきしめたまふ

享保九辰年　月　日老辞賜黄金二枚入

青木右馬之丞死

享保十三申年九月廿九日死

天和元酉年二月廿六日

万治三子年十二月十八日御目見

大御番稲垣安芸守組　二百俵　武蔵七九郎某

武蔵

小普請

惣領

元禄元辰年十二月廿三日　元之通御納戸

天明二寅年六月三日

大御番稲垣安芸守組　三田蔵之丞倅西福院養子
小笠原信濃守組松平縫殿頭組
二百俵　三田小左衛門二男
内宇俵　後　蔵之丞

西之房第六坂の字置並に参り

元禄元辰年十二月廿三日棟方御綱之

天和三亥年閏五月廿二日
久保六左衛門重信惣領
天和二戌年十二月十八日家督
出雲信 松平縫殿頭組
大御番松平主計頭組　高右　久保七郎左衛門辰房
辰房弟大坂の定番ニ而年々二十年勤之
元禄八亥年十二月十八日大御番組入
元禄九子年十二月廿八日 於殿中御勤ニ付
年来付 御帳面銀十枚時服二ツ拝領
元禄十一寅年十二月廿二日番入松平主計頭組
享保四亥年八月二日為 永井市正内支配
享保十二未年十二月十五日死

天和三亥年閏五月廿日　榊原九左衛門改役出仕

小普請[illegible]出羽守組

天和二戌年五月廿九日跡目

大御番松平主計頭組　部屋住　榊原十右衛門改役

改役之節大坂の定番ニ而当年参候

元禄四未年十月十九日御番衆書替役と

為つき候事と存候

元禄七戌年八月十一日跡目百俵

被下され十一月廿九日より定番ニ

列す

元禄十三辰年十二月晦日辞入水野長門守組

宝永三戌年八月二日死亡宇田家

天和三亥年閏五月廿日　大河内若狭守改 重恵生之子

寛文十二子年　月　日誕生　小普請大久保佐渡守組

大御番松平主計頭組　三百石　大河内又十郎　改年六

改年六　元大坂の御番勤ル亥ノ年　三十五

元禄五申年　十二月九日　新御番　武田与左衛門組

天和三癸亥年閏五月廿日

天和元酉年十二月十二日跡目

久保十郎左衛門勝清嫡子

小普請

大御番松平主計頭組 二百石 久保左衛門勝治

勝治二男大坂の宿所ニ而果る

元禄三午年八月廿二日死 二十七歳

天和三亥年閏五月廿日　尾張伝馬町某忠所

天和二戌年十二月十八日家督　小普請

大御番松平主計頭組　二百俵　尾張忠八郎某

貞享三寅年十二月十九日　御膳所奉行

天和三亥年閏五月廿日

天和二戌年十月十八日家督

大御番松平主計頭組　篠山八郎左衛門資能惣領

小普請　二百石　篠山孫八郎資長

貞享元子年　六月十二日　拂方御納戸

天和三癸亥年閏五月廿五日

大御番松平主計頭組 御書

小田切新右衛門昌俊惣領
小普請大久保山城守組
二百俵 小田切嘉兵衛昌近
後昌吉

昌近高祖父の系譜ニ而家筋ニ付
貞享元子年七月二日家督父之知行
昌吉之相続是迄之二百俵返上ニ付
父之稲田の御蔵米ニ而相続七百俵ハ書付
添高又昌一ニ而相續る
貞享三寅年十一月廿八日上総国山辺郡
壹野村と砂田村との論所検ニ而御用を

御代官竹内三郎兵衛尚廷ともに
命ありし同月十九日御暇まゐらせ時服二
羽織を得る夫より彼地に来て武野
村の歴々柳沢出羽守保明の邑三千石と脇田
村の主酒井信八か盗人農長と百ても事と
紀断して浄ししに其事諸ろの事に
違へる事も裁許のよりたとかやまも
るかと行て

貞享四丁卯年七月六日大汲伊豫守秋隆に御預
同日評定所にて百さまそ公儀柳沢出羽守
か宗知と酒井信八と盗人和行と野論の事と
検分して引渡の事にて済む様にうか

まて候て宗知四百石を奪すなまし大汲
伊豫守秋隆に預けおき
元禄四辛未年二月廿八日酒井信濃守に預け
かへ給ふ
元禄五壬申年五月九日死罪御免
元禄七甲戌年五月十日二百五十石下さるまし
廣米二百俵を得て小普請北条安房守
組に入る
元禄九丙子年七月五日致仕髪を剃りて
秋山と云
正徳二壬辰年八月十五日死七十四歳

天和三亥年九月十三日
大御番松平主計頭組
御勝手奉行川勝又左衛門忠長養子
二百俵 川勝源五郎意勝
後二百五十俵 改 右近
治左衛門

同年廩米二百俵被下
意勝家ハ大坂の御番衆ヲ承る事なく
元禄十丑年七月廿五日御加増二百五十俵被下
其の二百俵ハ返し奉る
元禄十二卯年夏二之丸城の御番を承る
故なきことあるを以て三月四日御預出家
の罪を許されしハ叔父川窪信左衛門の働きよ

狂病の由を伝左衛門方へ従者よりて組頭に告
来るは見届として喜勝宅へ向ふへきよし
にて伝左衛門旅宿に帰りしに伝左衛門
狂病さらんにて妻子二人を切倒し妻の
方に切かゝらんとす所に喜勝来り合
伝左衛門喜勝ちかくとなりしに伝左衛門
来りて喜勝を切懸けしに喜勝思ひしに
狂病との組当へきとてあひあひしに
あまさへ手を負ひ刀を稼すしく
伝左衛門よりかつも無体手ゝ組伏てとらへて
所の奉行に引渡す是より喜勝江戸に
帰り無事を療養して金をまは八月

十二日元を上りて二条城に来て宿直す
右ゆゑ宿直せしを明の
元禄十三辰年三月に帰りしに六月九日
御書院の附大番頭相役に当番
務めしの事を尋ぬへしに其事の子細
書出よとの事にて言へまゝ申しに
手疵にて席を改めまでよく住り
たるとの仰にて感し候事不斜
是等の事類も多き事なれと
其世乃人々申伝ふるなり
元禄十三辰年 十月二日 新清書附野酒之組

天和三亥年九月廿三日

大御番松平主計頭組　新御番松平右近将監組新左衛門父弟忠成

二百俵　河内猪右衛門久豊

改　新左衛門

同年廩米二百俵被下置

久豊事大坂の御番衆より来る年在々

元禄十四巳年五月廿二日　従新番　桐之間御番

元禄十五午年四月六日御小納戸

同年十月四日小普請ニ入りて遠慮

持筒組ニ入

元禄十六未年　月　日添目二百五十石

是ゟ此二百俵ハ返シ奉る
宝永元申年六月十二日 元組大御番ニ被
能登守組ニ御番

天和三亥年九月廿五日
大御番松平与平次組
新御番仙石次左衛門組中六郎之助惣領
二百俵 松下中之丞之備
後六百五十石
同日廩米二百俵を備ふ
之備 京大坂の御番衛ゟ家の事務く
元禄二巳年七月十日 跡目六百五十石
是ゟ此二百俵ハ返シ奉る
元禄十一寅年七月三日 廩米二百俵を
兼帯ゟ歩し改り 常陸國真壁郡
新治郡筑波郡の内にて二百石ニ被下

元禄十三庚辰年十二月十三日御具足奉行
享保二丁酉年四月十四日死 享一歳

貞享元甲子年五月廿五日
天和三癸亥年七月　日御目見　多田市右衛門秋定養子
小普請
大御番松平主計頭組　三百石　多田久右衛門秋安
改 三左衛門
秋安事大坂の御番ニ當リ元禄年中ニ罷越
元禄十五壬午年五月十八日大御番組入
同年六月廿八日坂城の御番ニ當リ罷越ニ付
御暇白銀拾枚時服二ツ被下之
拝領仕ル
元禄十六癸未年十二月廿一日御加恩二百石
常陸国真壁郡の内ニて被下元高百石

宝永二酉年夏二条城詰御番相勤ル
宝永五子年秋坂城定番相勤ル
正徳元卯年夏京都御番相勤ル
正徳四午年　月　日辞入松前伊豆守組
享保四亥年六月十一日為金田周防守支配
享保十巳年六月十七日死　享年七十歳

貞享元子年十二月廿五日　小林三郎右衛門某養子
延宝二寅年十二月十一日御目見
大御番松平主計頭組　小普請　百五十俵　後二百俵　小林源左衛門重友
同年六月廿日御蔵奉行と兼へき
俸を兼五十俵を加へ合ひ元二百俵
元禄十四巳年四月十三日御腰物方

貞享四卯年二月十三日
笠原平左衛門信庸忠之子
貞享二丑年十二月十二日家督
小普請松浦内蔵允組
大御番松平主計頭組　四百石　笠原平八郎信勝
信勝兼大坂の勤番仕候事十三度
元禄七戌年十二月十二日御弓矢鑓奉行
享保八卯年十二月廿五日辞入内義老衰充
元文五申年二月廿三日死八十四歳

貞享四卯年二月十三日

神田勘三郎正信惣領
小普請松浦内蔵允組
延宝六午年七月十三日御目見
大御番松平主計頭組　番衣　神田孫之丞正次

同年夏二条城の警衛として登る宿直
ありて京に帰りし旅中に病に臥りて

元禄元辰年四月十五日於武州神奈川駅死二十三歳

貞享四丁卯年二月十三日
石野三左衛門廣茂惣領
小普請松浦内蔵允組
延宝八申年十二月十三日跡目
三百石
石野六左衛門長廣
後三百俵
改 三左衛門
大御番松平主計頭組

長廣京大坂の御番より帰年御加増
元禄十五午年十二月廿二日於城の御法度より
在役時御金宰領として去ニ入より
以来六御祝時服二ツ備る
宝永元申年四月朔日大坂御金奉行
同年七月朔日御祝金一枚時服二ツ備る
正徳五未年十二月十二日大坂御鉄砲奉行

享保七寅年七月廿六日 摂城御経蔵の
御用として黄金三枚を備ふる
享保九辰年八月廿六日 糸和武州
橘樹郡菅生村手家に秘惜おさ
め置六歳年よりへ譲る
享保十三申年三月十六日 西城御書院番
同年十二月廿二日 布衣となる
元文四未年四月八日死 七十三歳

貞享四卯年二月十三日
天和三亥年七月晦日
大御番松平主計頭組
右同長七郎右武惣成
小普請大坂支配組
二百五十石 太田長十郎嘉寛
同五十俵
嘉寛家大坂の御番まで勤る
元禄五申年七月 釈入寂 伊豫守組
元禄九子年五月二日 組元 大御番三枚
能登守組より御番

貞享四丁卯年二月十三日

貞享三丙寅年七月九日家督　内藤源兵衛為勝二男忠次
小普請

大御番松平主計頭組　二百俵　内藤吉兵衛勝休

元禄元戊辰年十月二日　桐之間御番

元禄二己巳年四月廿五日御小性御加恩二百俵

元四百俵

同年四月廿八日小普請入リニて彦坂

壱岐守組ニ成ル

元禄三庚午年二月廿二日　組元大御番松平

主計頭組江帰参

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan